

み ち の く 秋 田



地方だよりという、どうも御国自慢になるのが通例である。その通例におちいり易いが文化とか産業の面はさておき自然環境についての秋田は有名観光地の様に人口に膾炙された美しさはないだろうが、山でいえば比較的人臭くない深山があったり、一般に素朴なよさがある。

本県の東を南北に奥羽山脈が岩手県と繋をなしておりこの山脈中には1,000米から1,500, 1,600米級の山々が連なっており、その中で八幡平は高山植物の豊富な事や北投石などの天然記念物があり、冬の樹氷美を加えて昨年国定公園に指定されたのは遅きに失した位である。訪れる人の跡をたたない八幡平をはじめ、この山々のふところには多くの原始的な山の温泉が湧いているのも訪客に一層の情緒を与えている。この山脈が冬季多くの降雪をもたらし山麓一帯では2米以上の積雪が普通である。そしてこの地方は木材を初めとし天然資源にめぐまれ総合開発の特定地域に指定されている。特に田沢湖を中心とし電源開発は戦後いち早く実施され我々の水文気象とも多くの関係をもつようになった。

西の日本海岸の男鹿半島は男鹿島と言われておったのが第4紀現世に半島化し海岸段丘と断層海岸の海岸美を誇り、県南山形県境に鳥海山が広大な山麓をもって海岸近くそびえ立ち、単調な北日本海に色彩をそえている。この山麓地帯も多くの天然資源にめぐまれ、これからの総合開発の舞台ともなるであろう。

このような自然環境の中にあつて県の中央平野の海岸寄りにある秋田市は佐竹侯の城下町として発展し戦災にもあわず、昔の倂をとどめる多くの風物によって街全体の落ち着きを保っている。旧市街のはずれ海岸から直線距離にして3キロ余の田圃の中で、その辺一帯は我が国で数少ない石油資源の豊庫として有名な八橋油田の橋が林立する小高い丘の上に秋田測候所がある。県面積の大きな割に秋田市1カ所にしかない測候所として当所の業務面、特に予報面の困難さは想像されると思われまふ。府



県区測候所の仕事に加えて高層観測が行われており、種々の試験観測も実施されており、さらに近く放射能観測も開始された広範囲の仕事をもつ42名の世帯、その大半が未だうす暗い明治時代の建物の中で、観測予報や水文気象或いは高層観測等の新しい仕事に黙々として励んでいるのは対照的である。

宣傳臭が強くなって恐縮であるが次の機会にほんとうにローカルな特色をカメラにとらえて紹介したいと思ひます。
(秋田測候所 小林久雄)

* * * * *

【写真説明】

上「旧市街の郊外八橋油田、測候所、秋田市総合グラウンドを上空より写したもので、測候所は中央の白い建物です」
朝日新聞社秋田支局提供

下「冬季は月の10日から15日位が暴風日数として数えられ自然積雪も割に少なく平均50cm位である、吹雪の合間1月下旬温暖な日の続いた好天の日の測候所」

撮影者 小林久雄